

プラズマ・核融合学会誌

第90巻第1号

2014年1月

巻頭言	中島尚正	1
プロジェクトレビュー	核融合科学研究所における数値実験研究プロジェクト	堀内利得 2
小特集	放射線照射環境下における材料物性値のその場測定		
	1. はじめに	四竈樹男 40
	2. 材料の物性値に対する放射線照射誘起効果		
	2.1 照射誘起発光を利用した光計測技術による放射線計測 藤健太郎, 中村龍也	42
	2.2 ガンマ線および中性子照射誘起絶縁劣化 土屋文	47
	2.3 中性子照射誘起熱伝導度 四竈樹男, SNEAD Lance L.	52
	2.4 イオンビーム誘起発光測定 永田晋二, 且井宏和, 星勝也, 土屋文, 藤健太郎, 四竈樹男	55
	2.5 イオンビームを用いたプラズマ照射下その場水素濃度計測	大野哲靖, 松波紀明 59
	2.6 圧力管型試験片を用いたF82H鋼の照射下クリープの評価 安堂正己, 野澤貴史, 廣瀬貴規, 谷川博康	64
	3. 光ファイバの熱発光特性を利用したガンマ線照射環境下における その場温度計測の基礎研究 土屋文, 藤健太郎	68
講座	プラズマプロセスを用いた炭素材料合成の実際と産業利用における課題		
	1. はじめに	山田英明 74
	2. DLC成膜プロセス研究の最前線	上坂裕之 76
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト		84
インフォメーション		86
	ITER だより ⁽⁴³⁾		
	【人事公募】		
Plasma & Fusion Calendar		89
本会記事		90
	【こちら編集委員会です】発表！2013年下半期の学会誌（7～12月号）でもっとも多くダウンロードされた記事		
	第30回年会報告／第30回年会若手学会発表賞選考結果の報告／第10回核融合エネルギー連合講演会一般講演の募集／第31回年会の開催について／PLASMA2014開催にあたって／PLASMA2014招待講演の募集／第30回年会ポストデッドライン講演／学会賞募集のおしらせ		

表紙の絵

LHDの協同トムソン散乱計測用光源への適用を目指し、福井大学において295 GHzの高出力ジャイロトロンを開発中である(図a)。これまで、目標とする発振周波数、並びに200 kW以上の出力を得た。放射分布も、計算結果(図b)と計測結果(図c)で比較的良く一致し、水平方向と鉛直方向においてガウシアンで良く近似される形状を持つことを確認した。(Yuusuke YAMAGUCHI *et al.*, Plasma and Fusion Research Vol.8, 1205165 (2013) <http://www.jspf.or.jp/PFR/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません(社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052東京都港区赤坂9-6-41乃木坂ビル3F Tel: 03-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。